

番号	日時	質問	回答	分類
1	2017年12月20日	<p>検査項目にある%1秒量についてですが、この計算に必要な1秒量の予測値の計算式は、過去に使われてきたBerglund式で計算したものか、2001年に呼吸器学会が発表した日本人のデータから求めた予測値の計算式によるものかをお教え頂けますでしょうか？</p>	<p>日本呼吸器学会肺生理専門委員会（2001）の予測式によるもの、すなわちご質問の后者です。</p>	呼吸機能
2	2018年4月9日	<p>呼吸機能（スパイロメトリー）の3行中のI、第1行目では1秒率（%）が70.0以上ならA判定、69.9以下ならD判定です。 II、一方で第2行目では%1秒量（予測1秒量に対する%）80.0以上（1秒率70.0%以上）ならA判定、80.0%以上で（1秒率が69.9%以下）ならC判定、79.9%以下ならD判定になります。 しかし、これでは1秒率が69.9%以下の受診者の判定がCとDのいずれにもなりません。 端的に言うと %VC100、%1秒量85%、1秒率65%というデータの受診者はIではD判定に、IIではC判定になってしまいませんか？</p>	<p>呼吸機能のみならず、肝臓検査（AST、ALTなど）も1検査項目の判定でなく、検査群として判定されているかと思います。各項目がB判定、C判定、D判定が混在していても、最終的にはもっとも悪い判定をもって、その検査の判定といたします。</p>	呼吸機能

番号	日時	質問	回答	分類
3	2018年5月16日	<p>%肺活量の算出には実測肺活量÷予測肺活量×100だと思いましたが、その際の実測肺活量とは努力性肺活量（FVC）と肺活量（VC）のどちらを用いるべきでしょうか？</p>	<p>%肺活量 = 肺活量 ÷ 肺活量予測値 × 100 (%)</p> <p>引用文献 呼吸機能検査：「人間ドック健診の実際」（文光堂）135ページ 監修 日本人間ドック学会 2017年</p>	呼吸機能

番号	日時	質問	回答	分類
4	2019年4月1日	<p>平成30年12月14日発の「肺機能の判定区分の基準値」についての問い合わせです。</p> <p>過去は、1秒率と肺活量で、正常値、閉塞性、拘束性、混合性の区分と理解をしていましたが、1秒率と%1秒量での判定区分になっていますが、検査機器では1秒率と%肺活量で上記の正常値、閉塞性、拘束性、混合性のグラフ及び数値が自動にて表示されます。</p> <p>%1秒量と%肺活量は基本的に同じものではないと理解しております。</p> <p>また、なぜ%1秒量が必要であるのかが理解できません。</p>	<p>呼吸機能検査の評価は、2007年に日本呼吸器学会から発表された下記の区分に従っています。詳細については、日本呼吸器学会にお問い合わせください。</p> <p>https://www.jrs.or.jp/modules/citizen/index.php?content_id=138 https://www.jrs.or.jp/modules/citizen/index.php?content_id=102 http://www.gold-jac.jp/about_copd/test.html</p> <p>現在の呼吸機能検査装置では下URLの3ページのように、%1秒量判定がでできます。</p> <p>http://www.jrs.or.jp/uploads/uploads/files/photos/342.pdf</p> <p>グループ定義</p>	呼吸機能

番号	日時	質問	回答	分類															
		参考資料	<p>検査結果に対応して表示されるコメント</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="1223 278 1382 383"> A 異常なし </td> <td data-bbox="1382 278 1685 383"> 肺疾患の可能性は低いです。同性同年代の平均値に比べて数値が良く、今後も定期的な呼吸機能検査を続けて健康を維持してください。 </td> <td data-bbox="1685 278 1892 383"> 一秒率が70%以上で%一秒量が100%以上 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1223 391 1382 495"> B 境界領域 (現時点では異常なし) </td> <td data-bbox="1382 391 1685 495"> 同性同世代の平均値に比べ数値がやや悪く、今後も定期的な呼吸機能検査を続ける必要があります。 </td> <td data-bbox="1685 391 1892 495"> 一秒率が70%以上で%一秒量が80%以上100%未満 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1223 504 1382 608"> C 肺疾患の疑い <要精検> </td> <td data-bbox="1382 504 1685 608"> COPDの可能性は低いです、同性同世代の平均値に比べて数値が悪く、他の肺疾患の疑いがあります。専門医による再検査が必要です。 </td> <td data-bbox="1685 504 1892 608"> 一秒率が70%以上で%一秒量が80%未満 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1223 616 1382 720"> D COPDの疑い <要経過観察/ 生活改善> </td> <td data-bbox="1382 616 1685 720"> 軽症COPDの疑い。現段階で自覚症状が無くても放置すると重症化する恐れがあります。専門医による再検査が必要です。 </td> <td data-bbox="1685 616 1892 720"> 一秒率が70%未満で%一秒量が80%以上 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="1223 729 1382 833"> E COPDの疑い <要医療/精検> </td> <td data-bbox="1382 729 1685 833"> 中等症以上のCOPDの疑い。専門医による再検査が必須です。適切な治療を早期に行う事で症状を改善し、疾患の進行を抑制することができます。 </td> <td data-bbox="1685 729 1892 833"> 一秒率が70%未満で%一秒量が80%未満 </td> </tr> </table>	A 異常なし	肺疾患の可能性は低いです。同性同年代の平均値に比べて数値が良く、今後も定期的な呼吸機能検査を続けて健康を維持してください。	一秒率が70%以上で%一秒量が100%以上	B 境界領域 (現時点では異常なし)	同性同世代の平均値に比べ数値がやや悪く、今後も定期的な呼吸機能検査を続ける必要があります。	一秒率が70%以上で%一秒量が80%以上100%未満	C 肺疾患の疑い <要精検>	COPDの可能性は低いです、同性同世代の平均値に比べて数値が悪く、他の肺疾患の疑いがあります。専門医による再検査が必要です。	一秒率が70%以上で%一秒量が80%未満	D COPDの疑い <要経過観察/ 生活改善>	軽症COPDの疑い。現段階で自覚症状が無くても放置すると重症化する恐れがあります。専門医による再検査が必要です。	一秒率が70%未満で%一秒量が80%以上	E COPDの疑い <要医療/精検>	中等症以上のCOPDの疑い。専門医による再検査が必須です。適切な治療を早期に行う事で症状を改善し、疾患の進行を抑制することができます。	一秒率が70%未満で%一秒量が80%未満	
A 異常なし	肺疾患の可能性は低いです。同性同年代の平均値に比べて数値が良く、今後も定期的な呼吸機能検査を続けて健康を維持してください。	一秒率が70%以上で%一秒量が100%以上																	
B 境界領域 (現時点では異常なし)	同性同世代の平均値に比べ数値がやや悪く、今後も定期的な呼吸機能検査を続ける必要があります。	一秒率が70%以上で%一秒量が80%以上100%未満																	
C 肺疾患の疑い <要精検>	COPDの可能性は低いです、同性同世代の平均値に比べて数値が悪く、他の肺疾患の疑いがあります。専門医による再検査が必要です。	一秒率が70%以上で%一秒量が80%未満																	
D COPDの疑い <要経過観察/ 生活改善>	軽症COPDの疑い。現段階で自覚症状が無くても放置すると重症化する恐れがあります。専門医による再検査が必要です。	一秒率が70%未満で%一秒量が80%以上																	
E COPDの疑い <要医療/精検>	中等症以上のCOPDの疑い。専門医による再検査が必須です。適切な治療を早期に行う事で症状を改善し、疾患の進行を抑制することができます。	一秒率が70%未満で%一秒量が80%未満																	
5	2019年6月10日	呼吸機能検査について、研修会では転倒防止のために、座位で必ず実施すべきであると言っていますが、それでよいのですね。	<p>日本呼吸器学会発行テキスト17ページ「測定手順」において、「原則的には座位または立位で測定を行う。座位以外で行った場合には、体位を記録しておく。」記録をしなくてよい通常の検査体位は座位となります。また安全性を考えれば、座位となります。</p> <p>参考文献 日本呼吸器学会肺生理専門委員会：臨床呼吸機能検査 17ページ 第8版 メディカルレビュー社、2016年</p>	呼吸機能															